

同様講師料をぜひ支給したい。

iv. 発表のために費した時間は、その科の臨床実習時間として換算する。

その 3 カリキュラムを変更して、「研究発表」または「症例研究発表」の時間を新設する。

(どうしても時間の工面が不可能ならば、臨床実習の時間を削減合理化してもよいと思う。)

われわれ教務の今後の課題として、今日まで行なって来た「研修」をさらにいろいろな角度から整理し、検討した上で、これらの問題の検討を続けて行きたいと思っている。

終 り に

今回はからずも、学生たちの「自由討議」の必要性うんぬんということで、教務全員が「自由討議」せざるを得ないはめになってしまい、年度末の忙しいさなかでもありましたが、とも角、時間

を重ねて討議しました。

ふり返ってみますと、ずいぶんたくさんの副産物をもわれわれに与えてくれたようです。学生たち以前にわれわれ自体、教務全員が胸を割って討議し合う「時間」と「場」がなければならなかったことを強く反省させられました。それは決して、テーマに対して与えられる「答え」だけのためではなく、討議の過程それ自体から得られる副産物がいかに重要な意義を持っているかということを、改めて考えさせられた思いです。未熟ではございますが、皆様方のご批判や、お教えをお願いできれば、われわれ教務員一同、この上ない幸せと存じます。

——看護教育向上のため、わずかでも

寄与できればと、念じつつ——

(厚生年金病院大阪高等看護学院教務)

編集デスク <27>

「出せ 1 億の底力」の 1 億は、戦争の暗い谷間の時代における戦争遂行のためのかけ声であったが、平和な現在においては 1 億は別の意味で深い意味を持つ。それは人間ひとりの価値に関係づけて 1 億円の意味でクローズ・アップされてくる。

初任給が 1 万 5 千円かそこいらであっても、年々昇級やベース・アップはあるし、ボーナスも加算される。そうすると、人間ひとりが生涯にかせぎ出す金額というものは、大変な天文学的数字になる。もちろん、その数字は退職金も入れて考えるのだし、また複利計算をしてのうえである。一方人をやとう側の立場からいえば、そのような給与を支払った上、机も椅子もロッカーもといった具合にいろいろの設備費や福利施設も必要となる。その上、人間は機械と違ってあらゆる可能性を持っているのだから、現在のようなインフレの時

代には、一生涯の人間の価値を金額に換算してみるならば、メておそらく 1 億近い巨額になるであろう。

たいへんな額である。人間のひそみかくれている力というものは、たしかにそのくらいに評価しなければならないだろう。今日は人間尊重の時代であり、そして人間学が問題にされ、人間にたちかえてものを考

こ の 一 億

——長谷川 泉——

えなければならない時代である。ノーベル賞受賞の科学者カレルが「人間・この未知なもの」で説いたのは自然科学に毒された人間に人間性回復の宣言をしたものであったが、今こそやはり、人間に立ちかえて全人間を凝視するところから問題を発展させなければならない時である。

樹木に年輪があるように、人間には精神の年輪がある。人間は機械とは違うから、毎日毎日、時間を経過す

るにしたがってプラスの要素が附加されてゆく。機械のように使い出した日から磨滅が始まって日々にマイナスがかせがれ、遠からずガタがくるものとは違うのである。人間における精神の年輪は、そのようにして日ごと夜ごとに価値が高められてゆく。

人間における精神の年輪、高められ拡大されてゆく価値の増量、そのような自覚を持って仕事をしてゆくことの自信を考えると、日々の面貌は一新されてくるのではないか。人間の平均年齢は、ますます延びる一方である。一方社会的な規制を受ける停年制度というものは、厳然とある。停年は人生の終わりではなく、第 2 の人生の出発である。そのためには、人生の年輪は常に柔軟にして高められ拡大されてゆく価値をはらんでいなければならない。そのような人間の未来に幸福があるように。そんなことを去る日、ある学院で話す機会があった。